

## 分野:器官系統病態学

主科目 副科目	呼吸器病態生理学 Respiratory pathophysiology	DM_1413	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	-----------------------------------------	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
-					
ちば		◎萩谷 政明			會田 啓介 (助手) 白神 梨沙 (修練医)
-					

	呼吸器病態生理学Ⅰ (1年次)				呼吸器病態生理学Ⅱ (2年次)				呼吸器病態生理学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概 要	<p>肺癌、慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、間質性肺疾患などの各種呼吸器疾患の診断、治療手技を指導医などのもとで病棟主治医として学習し、基本技術(血液、喀痰検査、血液ガス、胸部レントゲン、CT、呼吸機能検査)についても学習し、習得する。その後代表的な呼吸器疾患について自ら診断ならびに治療プロセスの計画を立て、指導医などと共に治療に参加することができるようになる。</p>				<p>びまん性肺疾患、遺伝性肺疾患、各種呼吸器希少疾患について診断ならびに治療プロセスの計画を立て、実行できるようになる。指導医のもとで呼吸機能検査、気管支鏡検査とその生検手技について学習し、実際に手技に参加して習得する。呼吸器領域における臨床研究を立案、企画、遂行するための基本的知識を講義、演習、実習などを通じて習得する。</p>				<p>今までに学習してきた各種肺疾患の病因、診断、治療の過程において画像診断学、呼吸生理学、臨床免疫学などの解析技術と応用法について学び、各種呼吸器疾患の診断、治療ができる専門的技量の習得と疾患の本態解明、診断、治療方法を行う能力を集大成する。上記について講義、演習、実習を通じて習得する。</p>			
到達目標	<p>① 臨床情報を収集し、そこから適切な検査法を選択し、結果を的確に診断し、臨床的診断に結びつける。 ② 呼吸器疾患の診断に必要な基本技術(胸部レントゲン、胸部CT、呼吸機能検査、気管支鏡とその生検手技などについて、専門的な知識と技能を身につける。 ③ 単なる診断だけではなく、治療に直結するさまざまな臨床情報を分析し、的確な治療と管理に役立てられる。 ④ さまざまな臨床研究による最新の診断、治療の知識を整理し、発信できる。</p>				<p>① 課題解決型の臨床研究のデザインを立案し、討議し、実行できる能力を養う。 ② 臨床的研究計画の実行に必要な、倫理的側面、技術的側面などについて十分な知識と理解をもつ。 ③ 臨床研究の結果を適切に解釈できるように必要な統計学的手法などを理解し応用できる。 ④ 得られた新知見を適切な手続きと正確かつ透明性を保った形で報告できる。</p>				<p>① 卒前教育、卒後教育を指導的立場で担当できる。 ② 呼吸器内科における最新の情報を生産、発信できる。 ③ 呼吸器臨床上で生じた科学的問題、および医療上の問題に対応し、それを的確に解決できる。 ④ ②に関して学会発表等を行う。</p>			
事前事後学修	<p>次回の授業内容に関する教科書の項目を予習し、関連する文献を2～3あたっておく。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>次回の授業内容に関する教科書の項目を予習し、関連する文献を2～3あたっておく。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>				<p>次回の授業内容に関する教科書の項目を予習し、関連する文献を2～3あたっておく。1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。</p>			
評価方法	<p>受講態度 50% (講義・実習・演習の課題・発表など) レポート 50%</p>				<p>受講態度 50% (講義・実習・演習の課題・発表など) レポート 50%</p>				<p>受講態度 50% (講義・実習・演習の課題・発表など) レポート 50%</p>			

## ■主な演習(講義・実習含む)

	呼吸器病態生理学Ⅰ (1年次)	呼吸器病態生理学Ⅱ (2年次)	呼吸器病態生理学Ⅲ (3年次)
—	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
ちば	水 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 呼吸器生理学	火 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 呼吸器生理学	月 曜日 14 : 00 ~ 16 : 00 呼吸器生理学
	金 曜日 13 : 00 ~ 15 : 00 呼吸生理検査	火 曜日 9 : 00 ~ 11 : 00 呼吸生理検査	水 曜日 9 : 00 ~ 11 : 00 呼吸生理検査
	木 曜日 10 : 00 ~ 11 : 00 画像カンファレンス	木 曜日 10 : 00 ~ 11 : 00 画像カンファレンス	木 曜日 10 : 00 ~ 11 : 00 画像カンファレンス
—	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

## 教科書・参考書

講義内で紹介

## その他履修上の注意事項

呼吸器疾患の患者数は国際的に急増している。肺癌は悪性腫瘍の中で死亡の第一位を占め、慢性閉塞性肺疾患(COPD)は現在全世界で死亡原因の第六位であるが、増加傾向にあり、10年後には死亡原因の第4位になるのが確実である。また気管支喘息患者も10年間で2倍のペースで増加しており、多くの患者を苦しめている。詳細な原因が不明なことも多い間質性肺炎や間質性肺疾患は種々の環境要因、薬剤により発症することもあり、病因、病態の解明、治療法の開発が強く望まれている。そのため、我が国の医療の質的向上のために呼吸器内科学の研究の進展が囑望されており、これら各疾患の疫学、病態生理、診断、治療ができる専門的技量の習得と、臨床的課題に立ち向かえる研究者の基本的要件習得が教育目標となる。具体的には呼吸器臨床における幅広い知識、技術の習得により呼吸器学会専門医の資格獲得、病因における画像診断学、呼吸生理学、臨床免疫学などの各種の解析技術とその応用法について、疾患を直接の対象とした、本態解明および診断ならびに治療にかかわる研究を行う能力を修得させることが教育目標となる。試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。

この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	呼吸器外科学、放射線診断学・放射線腫瘍学、内科学系、生理学系、人体病理学・病理診断学など関連領域を1科目以上、3か月コースまたは講義・演習コースにて履修する。
	共通科目	呼吸器病学特論

## 関連する専門医資格

呼吸器学会専門医(日本呼吸器学会) 会員歴3年、経験5年ほか (<http://www.jrs.or.jp/home/>)  
アレルギー専門医(日本アレルギー学会) 会員歴5年、経験6年ほか (<http://www.jsaweb.jp/index.html>)

## キャリアパス(モデルコース)

